



## 27 八丈島神港風景

一面

矢崎千代二

昭和四年(一九二九)  
パステル、紙  
五九・三×四四・〇

昭和四年(一九二九)五月下旬から六月上旬にかけて、昭和天皇は大阪神戸行幸のため、海軍の御召艦に乗艦し、航路の途上、八丈島、伊豆大島、和歌山に立寄られた。矢崎千代二(一八七二—一九四七)はこの八丈島行幸に際して、朝日新聞社の派遣により随行、現地の写生をおこなった。本作が皇室へ納められた経緯は明らかではないが、画中に記された制作年や、翌年六月には朝日新聞社楼上で「矢崎千代二謹写八丈島行幸スケッチ展」が開催されていることから、この行幸に関わる作品であるとみられる。

描かれているのは、軍艦那智で入港し昭和天皇が上陸された、八丈島北東部に位置する神港(かみなと)(現在の神湊漁港)を見下ろす景観である。縦長の画面に、黄色く霞む遠方から手前に向かって、灯台や放牧された牛、舟や小屋などが描かれており、当時の島の生活の様子がよくとらえられている。旅で出会った瞬間の風景を描きとどめる「色の速写」を唱えた、矢崎らしい的確なスケッチである。

パステル画の巨匠として知られる矢崎は、東京美術学校で黒田清輝に師事して洋画を学んだ。明治三十七年(一九〇四)のセントルイス万博事務局勤務を契機に渡米、その後の生涯の多くを外国を歴遊して、そこで出会った異国の光景を色彩豊かなパステルで描いた。晩年は中国・北京の北平芸術専門学校で指導にあたり、同地にて客死した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社アイワード  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan